

ニューズレター 第2号

境目はどこだ？

南魚沼市 高野正秀

私が本格的にアディクト（依存症者）と関わるようになったのは、8年前だったでしょうか？生活保護のケースワーカーをしていたころです。その頃の私は、アディクション（依存症）に関する知識などまったくなく、目の前のアディクトの行動に振り回され（いや、勝手にこちらが転げ回っていただけか？）、疲弊していました。

でも、支援を受ける側のその人と、支援をする私と、その境目はどこでしょう？

確かに、生活保護のケースワーカーと受給者という正反対の立場で、一見違いは歴然です。しかし、その人も生まれた時から酒を飲んでいただけではなく、どこかでアディクトの道に入ってしまったわけです。

当時の仕事も今の仕事も、（自分的には）中々にストレスのたまる仕事だと思っています。この2か月は晩酌もあまりしていませんが（他のことに依存中なので！）、以前は365日欠かさず飲んでいていた時期もあります。そういえば、グリーンチャンネルを見ながら毎週末を過ごしていた時期も・・・。

どこで私が踏み止まったか覚えていませんが、振り向いてみると私の歩いて来た道のあちこちにも、落とし穴は開いていたことが分かります（この先もだと思いますが）。更に、私が周りを見回す時、完全に生活破綻しているレベルから、ちょっと危ないかな、傾向があるかなと思う人まで含めると、両手両足の指では到底足りません（故人含む）。

ところで、不勉強で5月末まで知らなかったのですが、去年12月に可決成立したアルコール健康障害対策基本法が、6月から施行されています。

この法律は、アルコールの良さを認めつつ、不適切な飲酒が引き起こす様々な問題の予防と対策、当事者の支援、国民全体の健康の保護を謳っています。

奇しくも、法律の施行に合わせるかのように、7月27日には「アディクションフォーラム in 南魚沼市」が開催されます。大勢の人に、『アルコール依存症を含む様々なアディクトについての正しい知識』『回復の方法があること、実際に回復して社会生活を送っている人がいること』を知ってもらうため、様々なアディクト当事者本人（みんな私の大切な友人であり、同志でもあります）が実体験を語ってくれます。

先程のアルコール健康障害対策基本法は、アルコール関連問題への関心と理解を深め、アルコール健康障害の予防に注意を払うことを、私たち国民一人一人に求めています。

一人でも多くの方から会場に足を運んでいただき、話を聞いてもらうことが、我々にできることの第一歩です。7月27日、会場でお会いしましょう。

第4回新潟アディクションフォーラム in 南魚沼市
2014年7月27日（日）13:00～16:30
南魚沼市ふれ愛支援センター
南魚沼市坂戸 399-1（銭淵公園となり）
にて開催いたします！

アディクション問題が問いかけるもの

服部潤吉

有名な歌手が覚せい剤で逮捕された。以前から同様なことが繰り返される。そのたびにバッシングが行われ、その背景が興味深く報道される。おそらく、彼らの周りには多くのアディクションの仲間がいて、家族が不安に苦しみ、そして本人は希望なく立ち尽くしているのだろう。また、報道ではいつも同じようにダルクなどのリハビリ施設が登場する。

日本では従来、覚せい剤などの薬物は犯罪として対処し、ほぼ矯正施設にのみゆだねているがそれだけでは不十分なことは明らかだ。厚生労働省の資料に、主要各国の薬物別生涯経験率のデータが載っている。

国別	調査年	対象年齢	生涯経験率 (%)				
			大麻	覚せい剤	MDMA	コカイン	ヘロイン
ドイツ	2009	18-64 歳	25.6	3.7	2.4	3.3	—
フランス	2010	15-64 歳	32.1	1.7	2.4	3.7	—
イタリア	2008	15-64 歳	32.0	3.2	3.0	7.0	—
イギリス	2006	16-59 歳	30.2	11.9	7.5	7.7	—
アメリカ	2010	12 歳以上	41.9	5.1	6.3	14.7	1.6
日本	2011	15-64 歳	1.2	0.4	0.1	0（誤差内）	0（誤差内）

薬物乱用の現状と対策 厚生労働省 平成 26 年 2 月

大麻、覚せい剤、コカインなどどれをみても日本とはけた違いに多い。従来厳罰主義と水際作戦という防止活動で対処していたが、今後、日本も深刻な問題となることが予測される。またアルコールという合法的な薬物は暴力や虐待という犯罪の温床であることは明白であるのにその支援は進んでいなかった。マックなどにも矯正施設や保護観察所などから相談や受け入れの依頼が続いている。現場ではアディクション問題への対応が求められているが、制度の壁は厚い。

わが国では、アルコールなどアディクションの支援は従来から、いわゆる専門病院にゆだねられていた。ところがその専門病院が減っているという。クリニックも山のように増えたが、アディクションは苦手だ。昨年長岡の専門病院で、医師不足から外来や入院の受け入れをやめている。何回か要望に行ったが、病院では仕方がない、努力をしているというが、いまだ方向性は見えていない。入院患者は 50% になり、ホテルのような立派な病院は廃墟のようにがらんとしている。精神科だし、依存症なんて関係ないと思っている人がほとんどだから、よくわからないと思うけど、こんな無策は全国でもない。依存症者や家族は疲弊し、倒れている。

医療の現代化、マニュアル化が進んでいる。画像診断や諸検査で診断が確定し、それに応じた手術や投薬が用意されるというものが専門性だとすれば、アディクション医療はなんと否専門的であろうか。診断はやさしく、治療は難しい。治癒率といっても、飲んでいても「先生のおかげで 3 年やめてます」などともいう。アディクション医療では 30 年に一回くらい、画期的な治療法が発明されるらしいが、まもなく消えていくという。昔も今もそしてこれからも、多分、画期的な治療法はないだろう。依存症の支援ということは極めて人間的な関わりだから。しかし、医療は回復の出発にとって欠かせない。本人は自ら進んでセルフヘルプグループやリハビリ施設につながることはない。へとへとになった家族の話聞き、いつわりの自分を語るしかない本人に関わる場所から始まる。飲まない人生を歩み続ける当事者の話では、昔の病院は薬も専門治療もなかったが、医師たちは熱心で患者たちと向き合っていたという。回復させるものは技法ではないようだ。

マックなどのリハビリ施設が日本で始まって40年くらいになるが、相変わらずさびしい現状にある。施設を運営するにはお金がかかる。しかし、アディクション支援は「障害者支援」の枠でやるしかなく苦勞している。日々のミーティングは「障害者地域活動支援」ではないと言われるところもある。私の関わっている新潟マックでは屋根の瓦が古くなり雨漏りがしていたが、ようやく直すことができそうだ。スタッフはいまだ週休二日をとれない。ギャンブルの人たちも回復のため入居したいが、「障害者グループホーム」は精神科医で診断書を書いてくれる医師が見つからない。苦勞は利用者やスタッフを鍛えるというあたりまえの生活は望んでいい。

欧米ではアディクション回復の主役はリハビリ施設である。多様なアディクションの支援をしているが、病院として扱われているものや、医療スタッフは顧問医くらいしかいないところもある。料金もホームレスが利用できるものから1カ月何百万円というところまである。共通点はそこでの援助者はほとんど当事者であり、仲間の力を重視している点である。また、当事者が学べるソーシャルワークやカウンセリングのコースが多くの大学に開かれている。

時々妄想。リハビリ施設で専門医を雇用し、家族相談も受けて当初の相談から、離脱期、回復期を支援できないかと。多分その方が経済的、治療的はず。矯正施設、医療、リハビリ施設、行政の関わりと質が、今根本から問われている。

服部潤吉：

新潟県協会による心のケアセンターの設置と運営
長岡メンタルヘルス協会理事長
特定非営利活動法人 新潟マック理事
新潟アディクション問題連絡協議会会長

取り組めば必ず回復する。

今回南魚沼でフォーラムの開催が決まってから実行委員の方々、南魚沼市の職員の方々と共に準備を進めてまいりました。

県内ではまだまだ理解を十分に得られていない現状です。今回で第4回と一歩ずつですが、県内を周り回復している本人達の姿や話を聞き、12ステップに取り組めば回復することを本人、ご家族、行政、医療関係の方々に知っていただきたい思いで活動を行っております。

私自身もギャンブル依存症本人です。新潟マック、ギャンブルやアルコールの相互援助グループのミーティングに参加し、回復の道を歩ませてもらっています。

自分の生き方を変えるため日々ミーティングに参加し、仲間と共に共感や希望をもらいギャンブルをしない新しい生き方を手にしました。

家族との関係修復や一人の社会人として仕事や人間関係が良くなっていく、今までの自分の生き方では出来なかった事です。

12ステップ、ミーティング、仲間と回復できるものがここには全部揃っています。多くの方々に参加していただき、アディクションに対する認識や理解を持っていただければと強く願っております。

第4回新潟アディクションフォーラム in 南魚沼市実行委員会委員長 柳 泰守

魚沼のPSWのつぶやき

久しぶりに病院に配属となり病院PSWとして3ヶ月が過ぎようとしています。

まだ3ヶ月という短い期間ですが、やはり出会うものですね。

そう、アルコール依存症・アディクション問題を抱えて身体的な治療が必要となった方々です。

「退院したら飲むに決まっている」と退院を渋る家族、「飲まない（つもり）と言っているのに」と（過去、何回も飲まないと言っては飲んできたという事実は横に置いて）イライラする当事者、「この機会に何とか」と専門治療導入に必死な地域支援者、依存症の専門治療プログラムのない医療機関……。

さて、病院PSWとしてはどう考え、何ができるものか……。

配属された病院では、以前行われていたARP（アルコールリハビリプログラム）は実施されなくなっており、アルコール依存症の専門治療については当事者・家族に説明し、希望されれば紹介する形になります。実際にはアルコールを抜いて楽々飲める身体にして退院ということにしかならない場合もあります。

地域にも、内科や外科にもアルコールなどの問題を抱えている人がおられます。

また、地域医療の再編により、平成27年6月以降の医療体制がまだはっきりと見えていない現状もあります。

アディクション問題を抱える方々・その家族と関わる者として関係者の仲間に入れてもらい、病院PSWとして何ができるか、模索と実行を繰り返していこうと思います。

※「何かしなければ」と思っている時点で相談員としての「病氣」がでていとも言えますので気をつけたいと思います。

魚沼のPSW 廣田尚子



「アルコール以外の問題」

四年前の六月に「アルコール依存症」と言われた時は、すぐに「ああそうか」と思えて、それが病気だという事なので、なおさら気持ちが楽になり、少しホッとしました。

それから二カ月の入院中にアルコール依存症の認識は深まりましたが、メッセージを受けたり、ミーティングに出たりして話を聞いても、自分と同じだという感じがしませんでした。そんな時に薬物依存症者のメッセージを受けて「これだ」と思いました。特に「生きづらさ」という言葉に共感しました。

その後、退院してからはアルコール以外のミーティングには、なかなか出られませんでした。「アルコール以外の問題も AA のステップで良くなる」と聞きました。今は少しずつそうになっているのではないか、と思います。

ヤマグチ



活動記録

2014年（平成26年）

- 6月 アスク・ヒューマン・ケア HP イベントページに第4回アディクションフォーラム in 南魚沼市の情報を掲載
- 6月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 6月 第4回新潟アディクションフォーラム in 南魚沼市実行委員会開催
- 5月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 5月 第4回新潟アディクションフォーラム in 南魚沼市実行委員会開催
- 4月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 4月 第4回新潟アディクションフォーラム in 南魚沼市実行委員会開催
- 3月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 3月 第4回新潟アディクションフォーラム in 南魚沼市実行委員会開催
- 2月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 2月 第4回新潟アディクションフォーラム in 南魚沼市実行委員会開催
- 1月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 1月 第4回新潟アディクションフォーラム in 南魚沼市実行委員会開催

2013年（平成25年）

- 10月 じょうえつ社協だより（2013年10月1日発行）に第3回新潟アディクションフォーラム in 上越市の情報（日時、内容）が掲載されました
- 9月 第3回アディクションフォーラム in 上越市合同実行委員会を上越市にて開催
- 9月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 9月 第3回アディクションフォーラム in 上越市実行委員会開催
- 8月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 8月 第3回アディクションフォーラム in 上越市実行委員会開催
- 8月 財界にいがた（2013年8月号）に第1回新潟アディクションミーティングについての記事が掲載されました
- 7月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 7月 第3回アディクションフォーラム in 上越市実行委員会開催
- 6月 第1回新潟アディクションミーティング開催
- 6月 新潟アディクション問題連絡協議会平成25年度総会開催
- 6月 新潟日報（6月27日朝刊）に第1回新潟アディクションミーティングの情報（日時、内容）が掲載されました
- 6月 新潟アディクション問題連絡協議会会議開催
- 6月 第1回アディクションミーティング実行委員会開催

2013年6月以前は省略させていただきました

第2回新潟アディクション問題連絡協議会総会を

2014年7月27日（日）10:00～12:00

南魚沼市ふれ愛支援センター（南魚沼市坂戸399-1）にて開催します。

（第4回フォーラムと同じ施設にて午前中に行います）

入会、献金、献品ありがとうございました！



アダルトチャイルドのグループ アルコホーリックの仲間
池田加奈恵 数井和代 加藤泰伸 北原勝利 ギャンブル依存症
者のグループ 斉藤克則 斉藤桂子 三交病院 摂食障害のグル
ープ 高野正秀 高橋純子 塚田芳子 土田亜紀 内藤奈美子
新潟アディクションフォーラムに参加して頂いた方々 野口孝史
服部成子 服部潤吉 荻野茂子 藤川成康 星野徹 薬物依存症
者のグループ 柳泰守 山口守行 鷺尾直昭 鷺尾

新潟アディクション問題連絡協議会からのお願い

1 会員募集

新潟アディクション問題連絡協議会では、当協議会の活動趣旨・目的に賛同し、新潟アディクションフォーラム等の活動推進を援助していただける個人を会員として募集しております。ぜひ当協議会の趣旨にご賛同いただき、会員としてご協力下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

会員費 年間 1,000 円（期間は4月～翌年3月までとし、中途入会も同じ金額とさせていただきます）

2 献金のお願い

新潟アディクション問題連絡協議会では、当協議会の活動趣旨・目的に賛同し、サポートして下さる方からの献金をお願いしています。現在、新潟アディクションフォーラム・新潟アディクションミーティングの開催資金はフォーラムでの皆様からの献金、自助グループからの献金、実行委員会等での個人献金、新潟アディクション問題連絡協議会会員費で賄っていますが、当協議会の活動の枠を広める為に是非とも献金をお願いいたします。

◆会員費・献金の振込先

ゆうちょ銀行 口座記号番号 00580-8-71726

口座名称 新潟アディクション問題連絡協議会

編集後記

昨年11月に第1号を発行してから半年ほど…第4回の新潟アディクションフォーラムの開催が7月に決定したわけなのですが、ではニューズレターも作らないとなあ、ん？時間あと一月くらいしかないじゃないか！まーでも前のデータ書き換えるだけだしな、まだ大丈夫か（病気丸出し）とかやったら先に印刷日程などが決まってしまう、そこから逆算するに…あと2週間だと？大急ぎで原稿を依頼し、結局は「今週末…いえ、来週頭でいいですからお願いします！」と自らを追い込む羽目に。世の中が自分だけで動いているわけではないという事を改めて思い知ります。

さいわいにも快く執筆を引き受けてくださった方々からの原稿が次々に届き、今回第2号のニューズレターを無事発行する事ができました。皆様に感謝。

新潟アディクション問題連絡協議会 広報担当 鷺尾

新潟アディクション問題連絡協議会 HP : <http://niigataaddictionnet.web.fc2.com>

新潟アディクションフォーラムブログ : http://blogs.yahoo.co.jp/niigata_addiction_forum